

## サークルだより

## 山歩きの会

- 京都在住の中山正隆です。

白門50会の設立準備のおかげで、京都府内在住の同期學員3名が2月17日、京都市内で初めて顔を逢わせる機会が出来ました。3名とも自営業の為、中々時間の都合が付きませんが、白門50会の発展の為力を合わせて行きたいと考えている次第です。

処で、小生の所属しています學員会京都支部では、同好会形式による事業を主体として活動しております。小生が担当しています『山歩きの会』は、毎月第1日曜日、第2日曜日そして第4日曜日に近畿の低山を歩く事にしており、京都以外の地域からの参加者も多く、好評を得ています。近畿地方に在住の同期の皆様、もしご都合が付きますならば一度ご参加賜われれば幸いと存じます。

日程等は京都支部の非公式WEBサーバ <http://nice-kyoto.homeip.net/gakuin/> の『山歩きの会BBS』にてご案内しております。

### 大学だより

二月と言えば入学試験のシーズンでもある。今年の法学部の志願者数は、15,687名で昨年比約777名の微増である。増えている背景のひとつに法科専門大学院(ロースクール)への期待感があるとも言われている。他の主要大学でもほぼ同様の傾向にあると言う。ご承知のように国の司法制度改革の一環として、ロースクールが法曹人養成の中心となり、母校中央大学では2004年4月にアジア経済研究所跡地の市ヶ谷キャンパス(東京・新宿区)で開講を予定している。この4月には、同キャンパスで多くの志願者が応募した専門大学院国際会計研究科(アカウントینگスクール)をスタートさせる。一方、後樂園近くの理工学部では、地下2階・地上14階総面積19,000㎡のビルを建設中で来年3月には完成予定である。この新棟は、産官学共同研究を含めた理工学の教育研究充実のほか、大学全体の都心展開の拠点として活用する。

多摩キャンパスに目を移すと、資格試験を目指す後輩のための勉学施設「炎の塔」が今年の6月に竣工を予定しており、学生の課外活動の拠点「学生生活関連棟」の鋳入れ式が2月末に行なわれた。受験者数の話に戻って恐縮だが、今年の受験者数は、少子化の影響にもかかわらず経済学部を除くと全体的には横ばいかやや増加する見込みであると聞いている。原因は、センター試験利用入試の導入にもあるが、少人数教育の充実など着実な教学改革の成果でもあろう。しかし、一方で夜間部を募集停止し、昼夜開講制に移行するなど駿河台の灯火を知るものにとっては少々寂しい動きもあった。多摩移転後約25年これも時の流れと受け止めざるを得ないのだろうか。植栽した桜も見事に育ち、春の季節には近隣の人達も弁当持参で花見に訪れる。交通アクセスも立川(JR)~多摩センター(京王・小田急線)を結ぶモノレールの開通で便利になり、中央大学・明星大学前で下車すればもう目の前は中央大学だ。たまには、夫婦揃ってお花見はいかがであろうか。少し足を伸ばせば、紫陽花祭りで賑あう高幡不動尊もある。まだの方は、機会があれば多摩校舎を訪れていただきたい。(文責:塩谷治史)

<係りから>白門50会会報を担当することになりました外村幸雄・山下史雄です。創刊号ということで全くの白紙状態からのスタートでしたが、なんとか原稿量も確保出来、やれやれといったところです。当初は事務上の都合もあり、投稿の案内は

eグループのメールだけにさせていただきました。ご了解下さい。詳しい投稿要領は別ページにて改めて案内させていただきます。さて、創刊号は紙面スペースの関係上、字の大きさを詰めなければならぬケースも出てきました。ページ数を増や

### メールで経費節減を!

山井 俊昭(50年法学部卒)

2002年、私の住む横浜はワールドカップで開幕中とはとてつもない賑わいになるのではと今からわくわくしています。箱根駅伝もそうですが、伝統あるスポーツイベントはその存在だけで人をひきつけ感動させてくれます。

私の息子は今27歳ですが、同じ中央大学で彼が在学中、神奈川父母連絡会の支部長を2年間やらせてもらいました。父母連絡会という組織は発足して当時10年目くらいで、神奈川支部では約5千人あまりと、全国で一番大きな支部でした。父母連神奈川支部では毎年藤沢の国道1号沿いで箱根駅伝の応援をやりました。幸いにも私が支部長のときに何年かぶりの優勝を果たしてくれ、大いに盛り上がった記憶があります。今でも父母連のOBとして、現役の父母さんに混じって毎年1月2日には藤沢の沿道に立っています。

そんな縁で中央大学とは少なからずお付き合いしてまいりました。未開の地多摩校舎にもずいぶん通わせていただき、いろいろな方々ともお付き合いさせていただきました。

父母連の役員は三十数名でした。大学から年間予算として30万円が拠出されましたが、支部全員に郵便物を送ると一回でバンクしてしまいます。結局役員だけの交流を行うしかないという状況でした。当時はE-mailも盛んではなく、本当に連絡方法に困ったものです。

このたびこの50会が誕生し、その設立総会でも申し上げましたが、連絡はとにかくメールを活用しましょう。現在のところあまり会員は多くないようですので、年4回くらい全員に広報誌などを郵送しても大丈夫でしょうが、なるべくならメールを使い、できるだけ経費を節約するとともに、メールでの会話に慣れていただくほうがよいと考えています。

その点から、この会ではe-groupsのメンバーリスト、共有フォルダなどを活用させていただきます。メールアドレスを登録していただいた方には、何度か会からメールが届いていると思います。それは、登録いただいた会員のアドレスをすべて登録し、同報メールできるように設定しているからです。届いたメールにそのまま返信していただくと、全員にメールが配信されます。連絡事項などはこの機能を使っていたければとても便利です。

また、共有フォルダには懇親会などの写真のほか、会則、細則、事業計画などを登録しています。見たい方は、いつでも自由に見ることができます。ダウンロードしていただく必要がありますが、見たいファイルをクリックするだけで勝手にダウンロードできます。ぜひ、一度お試しいただきたいと存じます。ほかにも投票の機能、予定表の機能など使える機能がたっぷりついて、ありがたいことにすべて無料です。

すと制作費用がかさみますので、ぎりぎりの所です。また、俊約のため制作は外注に頼らず、すべて自宅パソコンで行いました。品質には少し目をつけて下さい。なお担当の外村は大学で、山下は新聞社でそれぞれ働いています。今後ともよろしく。